

## 令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	34	学校名	静岡高等学校（全日制）	校長名	織田 敦
------	----	-----	-------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	<b>基本的生活習慣を確立し、授業・部活動・家庭学習に主体的に取り組む生徒を育成する。</b>	○「規則正しい生活（生活リズムを確立）している」と自己評価する生徒 80%以上 ○「朝食を食べている」生徒 90%以上	○「規則正しい生活（生活リズムを確立）している」 全体 68%、1年 59% 2年 69%、3年 75% ○「朝食を食べている」と答えた生徒 全体 99%	B	○規則正しい生活をしていると答えた生徒は全体で 68%だった。学年が上がるごとに生活リズムを確立する割合は増加傾向になるため、初期指導の充実が求められる。 ○99%と、ほぼ全員の生徒が朝食を食べている。
イ	<b>「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進し、知的好奇心や探究心を喚起する。</b>	○授業を大切にしている生徒、主体的に学ぶ生徒の増加 ○「授業の内容がよくわかる」、「知的好奇心を喚起する授業が行われている」と自己評価する生徒 80%以上 ○測定ツールで把握した学力に基づき授業改善に取り組む教員 90%以上 ○3学年分のシラバスの完成及び実施 ○3観点に基づく学習評価の実施率 100%	○「授業を大切にし、主体的に学習している」生徒 全体 90% ○「授業の内容がよくわかる」 全体 84%、1年 82% 2年 82%、3年 89% 「知的好奇心を喚起する授業が行われている」 全体 76%、1年 79% 2年 71%、3年 78% ○測定ツールにより授業改善に取り組む教員 100% ○シラバス3学年分を完成・実施 ○3観点に基づく学習評価実施率 100%	B	○「授業を大切にし、主体的に学習している」生徒は R5:87%から増加。 ○「知的好奇心を喚起する授業が行われている」については、目標数値の 80%以上は達成できなかったが、R5 の 70%からは数値が向上している。ICT を活用した授業実践への取り組みが増えたことも一因と考えられる。 ○「学力テスト」の結果分析や、1・2 学期末実施の「生徒による授業アンケート」による分析をもとに、授業改善につなげている。 ○新課程の完成年度を迎え、シラバス3学年分が完成した。 ○観点別評価の実施率も 100%になったが、観点別評価については、指導と評価の一体化も含め、さらに全教員が理解を深めていく必要がある。
ウ	<b>進路意識の高揚及び高い進路目標の達成を目指し、きめ細かな進路指導を推進する。</b>	○進路行事実施後の進路意識の向上 ○キャリア・デザイン・ツアーの参加者の進路意識の向上 90%以上 ○入らなければならない大学を見つけた生徒 80%以上	○「進路指導（講演会、大学訪問、進路情報の提供等）が適切に行われている」全体で 92% ○「知的好奇心を喚起する事業（キャリア・デザイン・ツアー等）が行われている」全体で 94% ○「入らなければならない大学を見つけた」 全体 75%、1年 67% 2年 75%、3年 82%	A	○90%以上の生徒が、進路行事、キャリア・デザイン・ツアー等が「適切に行われている」と評価しており、その成果が進路意識の向上につながっていると考えられる。 ○「入らなければならない大学を見つけた生徒」は全体では 75%だったが、学年が上がるにつれて数値が上がり、3年生では 82%となっている。進路だより、学年通信等による3年間にわたる継続指導の成果も大きいと思われる。

様式第3号

エ	<p>生きる力や豊かな感性を培うため、部活動、特別活動等の充実に努めるとともに、社会に貢献しようとする姿勢を育成する。</p>	<p>○部活動、特別活動等に積極的に取り組んでいる生徒 80%以上 ○部活動等を通じて社会貢献活動を行った生徒 80%以上 ○「挨拶ができています」と自己評価する生徒 80%以上</p>	<p>○「部活動に積極的に取り組んでいる」 全体 88%、1年 90% 2年 88%、3年 87% 「学校行事に積極的に取り組んでいる」 全体 94%、1年 95% 2年 94%、3年 93% ○社会貢献活動は17の部活動で実施。 ○「挨拶ができています」 全体 87%、1年 89% 2年 91%、3年 81%</p>	<p>A ○部活動・特別活動等とも、積極的に取り組んだと回答した生徒は各学年・全体とも 80%を大きく超えていた。R6 より部活動を全学年で任意加入としたが、1～3年生とも全員に近い生徒が加入しており、例年とほぼ変わらない状況であった。 ○R5 より4増の進捗が見られた。顧問等を通じて生徒に社会貢献活動の意義を伝え、計画的に地域等と連携し、活動の機会を増やしていく。 ○生徒課長による毎朝の校門指導も、生徒の「挨拶ができています」ことにつながっていると考えられる。</p>
オ	<p><b>校内外のプログラムや外部人材の活用、探究活動を通して、主体性や探究心、グローバルな視野、リーダーシップの育成等に努める。</b></p>	<p>○各種プログラム参加者の増加と意識の向上 ○各種講演等への参加生徒の増加と意識の向上 ○探究活動に関わる外部人材の新規開拓 ○探究活動の満足度の向上 ○「グローバル・スタディーズ・プログラム」への参加生徒の満足度の向上</p>	<p>○(1)名大 MIRAI GSC 未来の博士人材育成プログラム→8人 (2)名大みらい育成プロジェクト→3人 (3)ふじのくにグローバル人材育成事業(第1期)→9人採用 ○進路課主催の医学部進学講座(駿台予備学校講師)・先輩後輩交流会などの実施 ○SHIP (Shizuoka Innovation Platform)への依頼による人材活用 ○「充実した探究活動が行われている」 全体 78%、1年 82% 2年 73%、3年 80% ○グローバル・スタディーズ・プログラム (GSP) →参加者 22人</p>	<p>A ○(1)(2)とも学問への素養・高い英語力が必要とされるプログラムだが、参加している生徒はよく努力している。(3)については、夏季休業中に各国で活動し、県の広報にも協力した。 ○進路課主催の講演等の実施については、「進路指導が適切に行われている」「知的好奇心を喚起する事業が行われている」と自己評価する生徒がいずれも全体で 90%を超えることから、生徒の意識向上に十分につながっていると考えられる。 ○SHIP (Shizuoka Innovation Platform)に外部人材の紹介を新規に依頼し、県内企業人を中心として 36名の方の協力を得られた。 ○1年探究における「Question X」の導入や「伴走者」による専門的な指導・助言等が、生徒の探究活動の満足度を高めたと考えられる。 ○GSPの事後アンケートによる振り返りでは、9割以上が大変満足、8割以上が英語力の成長を実感したと回答した。</p>
カ	<p>心豊かな人生の実現に資する読書環境の整備に努め、図書館利用の推進を図る。</p>	<p>○朝の読書週間 年2回 ○LHRでの読書会 年1回 ○図書館開放日 年間 300日以上</p>	<p>○朝の読書週間 年2回実施 ○LHRでの読書会 1, 2年生で1回実施 ○図書館開放日 年間 295日</p>	<p>B ○朝読書週間(6・11月、いずれも10日間)を実施した。 ○1, 2年生はLHRで読書会を実施した。 いずれも生徒が書籍に親しめるよい機会であった。 ○図書館開放は295日になる予定(非常変災や学検関連の休館増のため)</p>

キ	<p>生徒が心身ともに健康に過ごすことができ、生徒の成長・発達を支えることができる教育環境を整備する。</p>	<p>○健康観察を通しての情報共有 ○校内情報交換会 学期1回以上 ○学習環境の美化に努める生徒の育成 ○安全点検 学期1回 ○必要な修繕等の実施 ○施設設備の整備・充実</p>	<p>○健康観察 →養護教諭実施 ○校内情報交換会 学期1回実施 ○「学習環境の美化に努めている」 全体80%、1年79% 2年78%、3年83% ○安全点検については年2回実施 ○最低限必要な修繕等の実施 ○施設設備の安全点検は学期1回以上の実施</p>	<p>B</p> <p>○毎日の健康観察を通じ、心身に不調を抱える生徒や感染症情報について担任や関係職員と情報共有できた。 ○情報交換会を学期1回以上開催し、問題を抱える生徒の共有と支援の方向性を確認できた。 ○全体で80%の生徒が、身の回りの整理整頓・清掃等により、学習環境の美化に努めている。 ○安全点検については年2回実施し、必要な整備を行った。 ○施設・設備の最低限の修繕は実施したが、老朽化に予算措置が追い付かない状況は依然として課題であり、引続き県への予算要求の継続が必要である。 ○施設設備の安全点検は学期1回以上実施した。</p>
ク	<p>高い資質・能力を備えた教職員集団であるべく、常に研究・修養に努める。</p>	<p>○教員各自が設定した研修の実施 100% ○センター定期訪問により授業改善の意識が高まった教員 90%以上 ○授業参観週間 年2回 ○不祥事根絶研修 毎月</p>	<p>○研修の実施 100% ○センター定期訪問に伴う授業検討会により、参加した教職員全員の改善の意識が高まった。 ○授業参観週間を4～5月、9月に実施した。 ○不祥事根絶研修を毎月実施</p>	<p>A</p> <p>○期首面談時に教員各自の研修目標を確認し、期末面談時に成果を確認した。100%の教員が、何らかの形で実施を行うことができた。 ○授業検討会では、ICTの効果的な活用の観点から研究授業・公開授業の良かった点と改善点・疑問点を共有し、課題の解決策を検討、見通しを立てることができた。 ○教科・学年を問わず授業参観が行われ、意識を高め合うことができた。生徒の主体的学びや知的好奇心の喚起を意識した授業が多く展開されている。 ○不祥事根絶研修については、毎月、職員会議や朝の打合せで実施。12月には教科別のグループ研修を実施した。</p>
ケ	<p>生徒・保護者及び県民から信頼される学校づくりに努めるとともに、学校の情報、魅力を積極的に発信する。</p>	<p>○中学生及び保護者等の土曜オープンスクールへの参加者数のべ1,200人以上 ○ホームページ更新週3回以上 ○不適切な会計処理0件 ○会計及び勤務サービスに関する職員研修の実施年1回以上</p>	<p>○1603人(昨年度比160人増)の参加 ○週平均1.9回更新 ○不適切な会計処理0件 ○会計及び勤務サービスに関する職員研修の実施年1回以上実施</p>	<p>B</p> <p>○さらに魅力的なイベントとなるよう、日程と内容を見直す。 ○1月に新ホームページへ移行。引き続き、個人情報保護方針に基づく適切な情報発信と広報活動に注力する。 ○対外的に返納や追給を要する不適切な会計処理はなかった。 ○職員会議、朝打合せ等の機会を使い、会計及び勤務サービスについての研修、周知事項の伝達等を年複数回実施した。</p>

様式第3号

<p>コ</p>	<p>「学校における働き方改革」に組織的に取り組む。</p>	<p>○行事の意義や必要性を確認し、必要に応じて行事を精選          ○ICTの活用により業務改善が図られる          ○職員安全衛生委員会の実施毎月          ○時間外勤務が月80時間を超える職員への管理職面談の実施          ○必要な職員について健康管理医との面談を実施</p>	<p>○令和6年度以降実施の行事削減等による効果を検証          ○研修の成果により、ロイロノートを活用する教職員が増えた。また、ほぼ全教科で採点ソフトの活用が行われた。          ○職員安全衛生委員会については、5月以降毎月実施          ○7人の職員への管理職面談を11月～12月に実施          ○健康管理医との面談希望者は0人</p>	<p>B</p> <p>○令和6年度以降の行事削減（7月球技大会・マラソン大会）及びテスト・成績処理日程の変更等については、大きなトラブルなく実施でき、業務削減の効果等も大きかった。          ○特に採点ソフトの導入により大きな業務改善が図られたと考えられるが、採点及び採点後の答案の配信等に際してのミスが生じた。          ○職員安全衛生委員会については、毎月の職員会議後に実施している。          ○時間外勤務が月80時間を超えた職員には声掛けや、必要に応じて管理職面談を実施し、自身の働き方を見直す機会とした。          ○健康管理医との面談を希望した職員はいなかった。</p>
----------	--------------------------------	---	---	--